

令和5年度 大川三潯地区在宅医療介護従事者研修会 アンケート集計結果

日時：2023/5/16（火）19：00～20：45

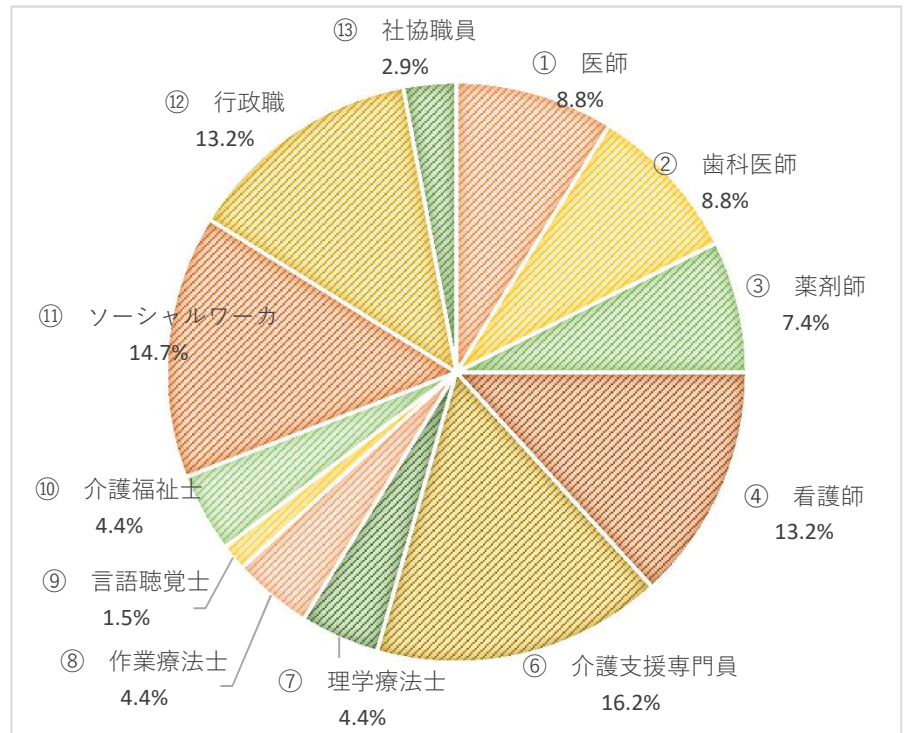
場所：大川市民会館（小ホール）

講演：自分のエンディングノートを作ろう 講師：鎌倉新書(小谷氏)

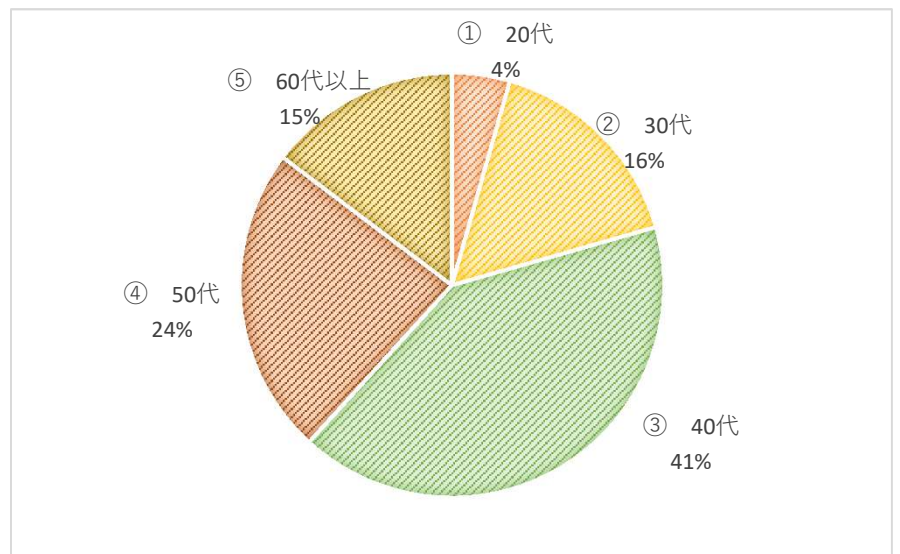
研修：エンディングノート（第3章）作成及びグループ討議

参加人数： 78人 回答者数 68人 回収率 87%

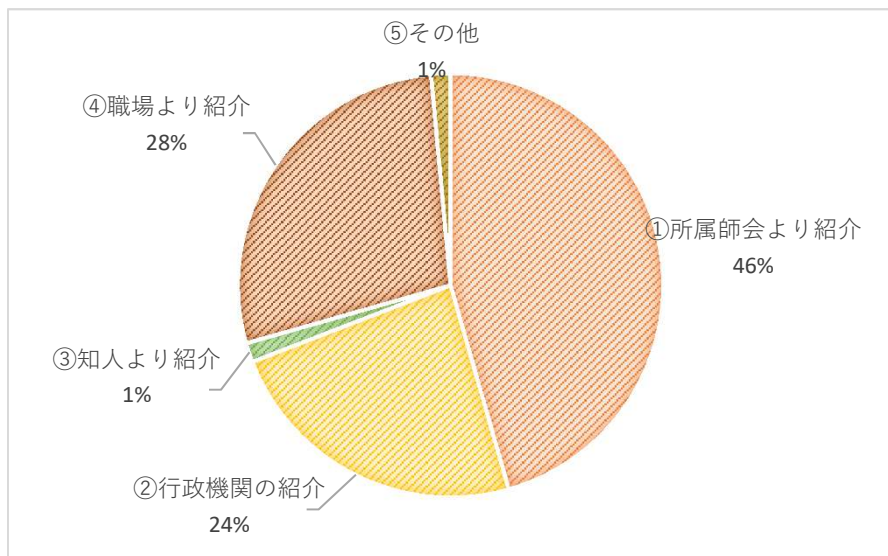
1. 職種	
① 医師	6
② 歯科医師	6
③ 薬剤師	5
④ 看護師	9
⑤ 歯科衛生士	0
⑥ 介護支援専門員	11
⑦ 理学療法士	3
⑧ 作業療法士	3
⑨ 言語聴覚士	1
⑩ 介護福祉士	3
⑪ ソーシャルワーカー	10
⑫ 行政職	9
⑬ 社協職員	2
計	68



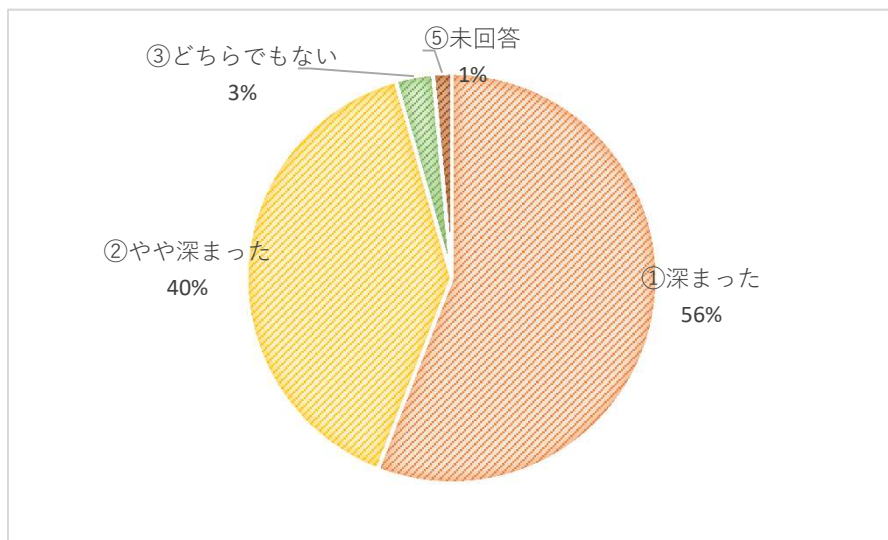
2. 年代	
① 20代	3
② 30代	11
③ 40代	28
④ 50代	16
⑤ 60代以上	10
計	68



3. 本講演の開催を知った理由	
①所属師会より紹介	31
②行政機関の紹介	16
③知人より紹介	1
④職場より紹介	19
⑤その他	1
計	68



4. ACPへの理解度	
①深まった	38
②やや深まった	27
③どちらでもない	2
④あまり深まらなかった	0
⑤未回答	1
計	68



5. 今後、多職種連携を図るために必要だと思うこと

- ・ 情報の共有（些細なことでも）
- ・ 情報共有のための支援窓口の設置
- ・ 定期的（例えば毎月）な研修や意見交換の機会設定
- ・ 研修会（グループワーク）の増加（編成は顔見知りで：初見では深い話がし辛い）
- ・ 職種単位での研修会開催
- ・ 課題の共有、顔の見える関係づくり（今回のようなグループワークの機会やネットワーク作り）
- ・ ディスカッションの場数を増やす（意見交換の機会増加・定期開催）
- ・ 得意な分野を生かしたチーム編成
- ・ 容易な意思疎通
- ・ 他の職種への理解(各々の役割、立場の違いによる考え方)
- ・ 実際の声をたくさん伝える場の設定
- ・ 各職種の現場での取り組み中の課題や気づきを共有する機会の作為
- ・ 各職種の指示命令系統の明確化
- ・ 対面研修
- ・ 最後まで「口から食べる」こと

6. 今後の多職種連携協議会の研修会において取り上げて欲しいテーマ

- ・ コミュニケーション能力の向上
- ・ 高齢者(認知症)、重度障害者へのエンディングノートへの関わり方（終活の切り口）
- ・ エンディングノートを記載した方の事例紹介
- ・ ACP推進に向けて具体的イメージができるよう事例をとおした研修
- ・ ACPについて繰り返し学んでいく
- ・ 認知症患者の医療・介護
- ・ 身寄りのない方への支援（入院、金銭管理、看取り等）
- ・ 実際に連携がうまくいっている地域の話聞く
- ・ 在宅医療（看取り）
- ・ 在宅ホスピス
- ・ 精神疾患患者の退院後の地域生活
- ・ 認知症の周辺症状等の改善対処法
- ・ 成年後見人制度
- ・ 遺産